

(9) 中国



中国地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

前回からの主要変更点

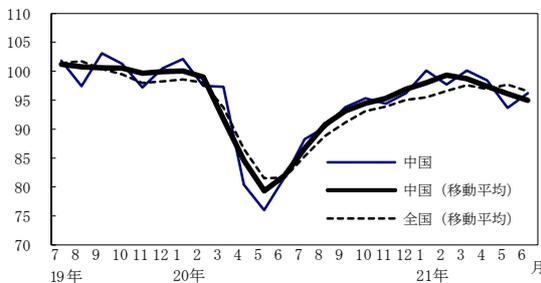
	前回 (令和3年6月)	今回 (令和3年8月)	
鉱工業生産	持ち直している	持ち直しの動きに足踏みがみられる	↓
個人消費	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	→
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

4-6月期の鉱工業生産は、輸送機械工業は普通乗用車等が減少したこと、電気・情報通信機械工業が減少したこと等により、前期比3.2%減となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1-3 月期	4-6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	23.2	0.8	▲15.0	▲10.7	▲4.3	2.9
汎用・生産用・業務用機械	13.3	6.0	1.3	2.2	▲14.1	25.6
化学	12.2	11.7	1.1	4.1	▲5.3	▲21.9
電子部品・デバイス	8.8	3.3	5.8	▲0.6	4.6	1.1
食料品・たばこ	6.8	0.3	▲1.2	6.9	▲8.8	3.5
鉱工業	100.0	4.2	▲3.2	▲1.7	▲4.8	2.7

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4-6月期、6月は速報値。

2. 個人消費の動向

個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4-6月期は前期比1.9%増となった。月別にみると、4月は前月比0.3%増、5月は同0.2%減、6月は同1.2%増となった。

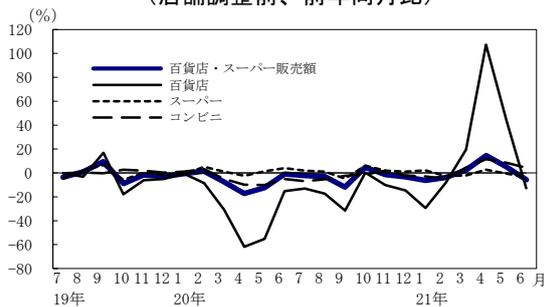
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4-6月期は前年同期比4.0%増(前々年同期比6.5%減)となった。月別にみると、4月は前年同月比14.6%増、5月は同5.2%増、6月は同5.6%減となった。

百貨店は、4-6月期は前年同期比27.6%増となった。

スーパーは、4-6月期は同0.5%減となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



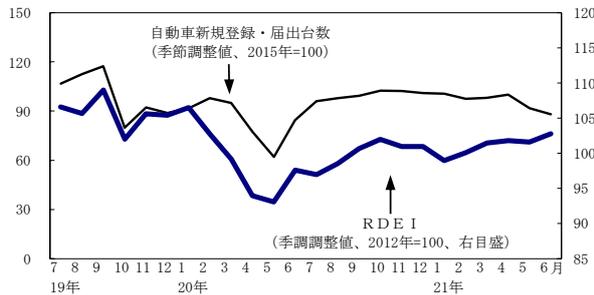
	2021年4-6月	2021年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.9	0.3	▲0.2	1.2
百貨店・スーパー(*2)	4.0	14.6	5.2	▲5.6
百貨店(*2)	27.6	107.2	44.5	▲12.7
スーパー(*2)	▲0.5	2.6	▲0.4	▲3.5
コンビニ(*2)	8.0	11.5	8.5	4.2
乗用車(*3)	23.4	30.5	48.5	2.4
(季節調整値)(*3)	▲5.6	2.0	▲8.4	▲3.9

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))

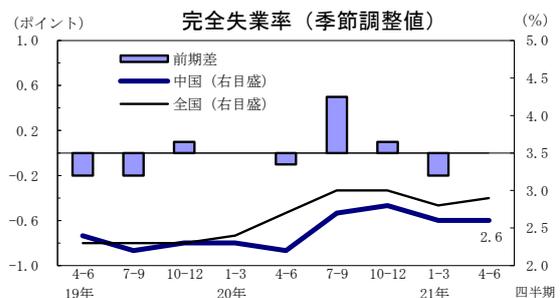
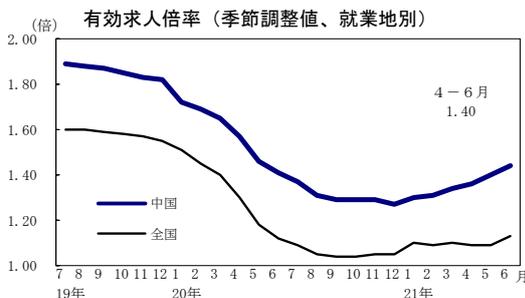
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準になっている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年7月調査) 景気判断理由の概要

9. 中国

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・相変わらず新型コロナウイルスの話題が出るたびに、特にディナータイムの来客数が減少する。県内の感染者数が2けたに達してからは、特に自粛が目立っている(一般レストラン)。
			・週末を中心に来客数が回復しており、土用の丑の日など催事商品の予約が好調である(コンビニ)。
			・新型コロナウイルスの影響で、繁忙期である夏季需要が伸びず、第1四半期の減収分をカバーすることができていない(旅行代理店)。
	企業 動向 関連		・地方では自粛ムードが続いており、特に、飲食業や観光業と取引の多い企業は目立った業績回復をしていない(金融業)。
		・受注低迷のため前年2月より雇用調整助成金を活用して休業を行っていたが、受注が徐々に回復し、7月より全工場で休業がなくなっている(金属製品製造業)。	
雇用 関連		・新型コロナウイルス感染症の終息の見通しが立たず、求人に踏み切れない企業が多い(民間職業紹介機関)。	
		・ここ数か月、企業からの新卒求人の申込みが増加してきており、新型コロナウイルスの感染拡大が一時的に落ち着いてきた状況とあまって、新卒採用に積極的な企業の活動が活発化している(学校[短期大学])。	
その他の特徴 コメント			：データセンターの需要や引き合いは、引き続き好調で、製造業、小売業、公共関係にかかわらず、全般的に引き合いがある。IT関連には、計画的な投資を行っている印象である(通信業)。 ：新型コロナウイルスのワクチン接種も足踏み状態が続いているため、依然として慎重な姿勢の客が多い(住宅販売会社)。
先行き	家計 動向 関連		・若い世代の新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、人出は多くなるが、今のままでは都市だけでなく、地方でも感染者数が増加するという危機感がある。外出の自粛が続き、巣籠り需要は続くが、衣料品などの回復はまだ先になる(百貨店)。
			・10月以降、トップシーズンを迎えるが、大会や団体などの先行予約は例年ほど伸びていない。ただ、一定の動きが出ているため、今後、景気はやや良くなる(都市型ホテル)。
	企業 動向 関連		・新型コロナウイルスのワクチン接種が進むが、東京オリンピック終了後に景気が落ち込み、住宅業界の景気も横ばいとなる(木材木製品製造業)。
			・新型コロナウイルス感染症の終息後も宅配需要は微増となる(輸送業)。
	雇用 関連		・宿泊業界には、業況に改善はないが、今後のワクチン接種の進捗状況を見て募集活動を再開するかどうか判断するとの話もあるが、現状では景気は変わらない(職業安定所)。
その他の特徴 コメント			：東京オリンピックが終わり、新型コロナウイルスのワクチン接種が進めば、客の外出機会が増加し、洋服を購入するようになる。ただ、テレビから感染情報を得て、ステイホームを続ける客も出てくる(衣料品専門店)。 ：土地等の資産を売却する業種もあれば、設備投資に土地を探している業種もあり、全体では、景気は現状を維持する(建設業)。

(DI) 現状・先行き判断DI(中国)の推移(季節調整値)

